

1

1 海岸  
2 水泳  
3 打たれる

4 表面  
5 緑  
6 予期

2

1 仲間  
2 エ  
3 ① イ  
4 ア  
5 ウ  
4 イ

5 I i  
待っている

I ii  
しん、とした空気

II  
さつと、ク

3

6 手紙  
7 正解

1 しかし、  
2 悪

3 ② ウ  
③ イ  
④ ア  
4 B ア  
C イ  
(4完答)

5 I  
相手に気を  
II  
その場だけ

6  
しつけ

7 I  
文化

II  
マナー

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

1 「海」の右下の部分を「母」のように書いてはいけない。「岸」の下の六〜八画目は「千」ではなく「干」である。  
2 「泳」の右側を「氷」のように書いてはいけない。また、総画数は八画なので気をつけよう。  
3 漢字自体はやさしいので、正確に書こう。右側のたて棒は、よこ棒より上に出ないように書こう。  
4 「表」の七画目と八画目を続けて書いてはいけない。「面」のはじめの三画も一画一画でいねいに書こう。  
5 右上の部分を「ヨ」と書いてはいけない。下のよこ棒はたて棒より右につき出すように書こう。右下の部分を「水」と書いてはいけない。

6 「予期」とは、「そうなるだろうと前もって期待したり覚悟したりすること」という意味である。

2

1 Aの直後の「つまり大林くん」という部分から、「大林くんがクラスの何なのか？」と考えればいいとわかる。Aの三行後に「大林くんのためにみんな考えよう」とあり、さらにその四行後に「仲間のことを一生懸命に考えましょう」とあることから、「大林くん仲間」だとわかる。

2 Bの直後に「もし長い間、学校を休むと、クラスでこんな話し合いがあるなんて」とある。Bの直前の「わたしは、あてられたくなくて首をすくめた」からもわかるように、わたしはこの話し合いに對してマイナスの気持ちで参加していることから、イとウはあてはまらない。また、わたしはこの場面でおこっているわけではないのでアもあてはまらないとわかる。わたしは、クラスのしんとした空気も、こういう空気を作り出す先生も、こわくて苦手なのである。

3 (1)の直前の「——手紙……」も、(5)の直前の「——よかった」もわたしの心の声だと気づけば、どちらにもアはあてはまらなるとわかるだろう。(5)は、直前の「——よかった」から、安心して様子であらわすことがあてはまるとわかるだろう。(1)は、直後の「少しでも動いたら次にあてられそうだ」から、おとなしくしている様子をあらわすことがあてはまるとわかる。五行前の「わたしは、あてられたくなくて首をすくめた」という部分も同じ様子をあらわしている。

4 線②の三行前で先生が「手紙などがいいと思います」と言っており、線②の九行後に「手紙、手紙、と中谷くんに言いたげな学級委員長のすがるような目」とある。さらにその十行後で、先生が「手紙に賛成な人は手を挙げて下さい」と言っている。以上の流れから、先生はみんなに意見を求めているように見えるが実は、自分の意見をつらぬこうとしていることが読み取れる。

5 I 「すがる」とはここでは「たよりにする」という意味である。つまり、学級委員長は「たのむから手紙と言ってくれ」と思っているのである。問4からもわかるように、先生の意見通りの「ちゃんとした答え」でなければ、先生は待ち続けるし、しんとした空気が続くことになるのである。

II 「他のみんな」「ここよりあとの部分から」という条件を読み落とさないようにしよう。この空気からぬけ出すには、先生の意見通り、「手紙」に決まるほかないのである。線③の三行後の「司会がほっとしたように、こくこくとうなずいていた」は、「司会学級委員長」なので、条件にあてはまらない。

6 Cの直前の「やはり」から、これまでに出了意見があてはまるとわかる。これまでに出了意見は「手紙」だけである。

7 Dの三行前に「息を詰めて先生を見た」とある。書いた手紙を読まれている間、わたしは緊張しているのである。その後、「はい、いいですよ」と先生に言われ、「——よかった」と安心して、以上の流れから、先生のお眼鏡にかなうような手紙が書けたということがわかる。先生が「正しい答え」にこだわる人物であることがおさえられていたら解けるであろう。

3

1 線①がふくまれている一文から、ここではドアのマナーについて答えればいいとわかる。ドアのマナーについて述べられているのは——線①の次の段落なので、そこから欧米について書かれている一文をさがそう。

2 マナーが身につけていないことを「マナーがA」と言っているのである。

3 (4)の前ではドアのマナーについて、(4)の後では大皿料理の食べ方のマナーについて書かれていることから、マナーの具体例がならべられているので、並列のはたらきの「また」があてはまる。ウの「もちろん」は「言うまでもなく」という意味のことで、当然のことを言うときに使うことから、(2)にあてはまる。(3)の前では「マナーも違うのは当たり前」とあり、(3)の後では、違うマナーを学ぶことの大切さについて述べられているので、逆接のはたらきの「でも」があてはまることとなる。

4 B・Cの二行後の「(日本人留学生は)自分以外の人のために、どうすればいいのかを考える習慣がない」という部分から、自分以外の人のことを考えているCには「デンマーク人」が、考えていないBには「日本人留学生」があてはまるとわかる。

5 I 「ここより前の部分から」という条件を読み落とさないようにしよう。本文を通読する時に、同意表現を意識しながら読む習慣をつけておきたい。

II ②の文から、日本ではマナーがどういふものとして考えられているか、を答えればいいとわかる。本文のうしろから五行前に「日本ではマナーというものが」とある。

6 Dの直後の一文で説明されている。はじめの「しつけ」が肝心だ、と言っているのである。

7 日本人留学生について書かれているのは、本文の(中略)より前の部分である。(2)・(3)がふくまれている段落がヒントになるだろう。